

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年どおり、ゴールデンウィークの来街者は少なかったが、極端な落ち込みはなかった。一方、中旬以降は徐々に来街者が増え始めた。また、外国人観光客も時折見られるようになり、エステ及び化粧品関連の販売量がわずかではあるが増加した。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの天気は良いとは言えなかったが、中国人観光客が増加しており、全体の販売量の約3分の1を占めている。これまで、当店の主力商品である昆布を買う中国人はあまりいなかったが、中国語の看板を掲げたことで、ゴールデンウィークを含む10日間の販売量は前年比108%となった。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・商品単価は低下しているものの、販売量についてはやや上向きとなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・買上客数が前年を上回ってきている。来客数が前年から伸びつつあり、特に食品の買上客数が伸びている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が増加傾向にあり、それに伴って売上も堅調に推移している。ゴールデンウィークも同様の傾向がみられたことから、消費者の購買意欲は高まっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・気温が高くなり、夏物商材が好調に推移している。今までは安い商品だけが目立った動きを見せていたが、今月はその偏りがなくなってきた。品質が良く、値ごろ感のある商品を求める傾向が強くなってきている。
		スーパー（役員）	単価の動き	・1～2月と比較して、商品の平均単価が前年比で3～4ポイント上昇している。客単価もほぼ前年並みとなり、客単価が下げ止まっている。また、価格の安いディスカウント商品から価格帯が少し上の商品に移行している動きもみられる。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・販売量がやや増加している。ただ、取引先との会話では、相変わらず景況感が悪いとの認識が多く、売上には結び付いていないのが現状である。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・この時期としては予想以上に観光客が多く、販売量が増加している。		
設計事務所（所長）	お客様の様子	・5月に入ってから、問い合わせ件数が急増している。		
変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候不順の影響でゴールデンウィークの観光客が伸び悩んだことから、飲食関連が前年を下回っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順のせいもあるが、季節商材の出足はまだまだの感がある。セール状況を見ても、先が見えない社会情勢に合わせて客の活力を感じられない。ただ、少しずつ動きが出てきているようにも感じられる。
		商店街（代表者）	単価の動き	・来客数はさほど変わりがないものの、単価の低い商品を中心に購買がみられる。ただ、3か月前と売上を比較すると、数字的にはそう変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客が減少していることから、来客数が減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみても、動きがつかめないことから、まだ様子を見ている状況にある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークの観光客の入込に期待していたが、気温が上がらなかったことから、人出が今一つであった。得意先の飲食店も来客数を減らしているうえ、客の財布のひもが固く、なかなかお金を使ってくれない。ゴールデンウィーク後は減速感が更に強まっており、売上の悪い状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・売上が前年比103%、来客数が前年比102%、客単価が前年比101%と徐々に前年を上回った。ただ、婦人服については、微減ではあるものの、前年を下回る状況が続いている。

百貨店（役員）	販売量の動き	・相変わらず客単価の低下がみられるが、一部の商品では質の良い物を求める傾向が出てきている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は食品や住まいの商品と比べて、衣料品の動きが特に悪い。母の日のギフトも前年と比べて、客単価が約1割低下している。天候不順の影響により、客単価と販売量がともに悪い状況であった。
スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品単価の低下は続いているが、下げ幅が小さくなっており、そろそろ底が見えてきている。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・従来は商品単価の低下を売上点数の増加でカバーして、客単価を維持していたが、ここに来て売上点数の伸びがやや鈍ってきている。来客数の前年割れが続いているため、客単価の増加幅の縮小に伴って、売上も厳しさを増している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温の低下が続いていることから、農家や観光面への影響がみられ、店舗の来客数にも影響が生じている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・少し暖かくなってきたので、多少は景気が良くなるかと期待していたが、客の出方をみると、割と街に出てきてはいても、それが売上に全く結び付いていない。
家電量販店（店長）	単価の動き	・前年度のエコポイント制度の終了に伴い、4月以降は主力の薄型テレビにおいて、反動が強く出ている。前年比で見ると、販売量は大幅に増加しているが、客単価が前年比70%を下回るなど、単価が大きく低下している。2台目需要として小型テレビが伸びていることも要因の1つである。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・環境対応車への補助金制度が延長されたことから、前年比での好調さは持続している。一方で中古車の動きが鈍っており、総じて大きな変化は感じられない。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・前年の新商品発売に伴って、先取り需要があったことから、今年に入って受注はほぼ横ばいで推移している。今年は新商品が出ないことも影響している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・車用燃料の販売量が前年に比べて10%落ち込んでいる。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの売上は前年並みであったが、その後の各週末は前年を上回り、全体では前年比101%となった。月後半の天候が悪く心配したが、まずまずであった。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは例年並みであったが、ゴールデンウィーク後に落ち込んだことから、月全体ではやや悪い状況であった。長めの連休だったためか、月末の給料日後も前年を下回ったままであった。売上が伸びないなか、他店では、アルバイト従業員の出勤時間を制限する例もみられる。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年、ゴールデンウィーク後の来客数は減少傾向となるが、今年はその傾向が強く、前年を約10%下回って推移している。特にランチ客の利用が少ない。
観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・前年のような新型インフルエンザの影響もないことから、来客数は持ち直しの動きがみられるが、旅行会社商品、インターネット商品ともに単価の低い状況が続いている。
観光型ホテル（経営者）	それ以外	・従来の個人客の主流であったビジネス客に加えて、主要エージェントの第1ブランドがほとんど壊滅的である。本来、高単価であるべき首都圏からは、低単価のものしか動かない。ただ、ゴールデンウィーク期間に一部動きがみられたほか、セールスの効果なのか会議等の団体利用、いわゆるMICEへの反応がみられた。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人旅行については、国内が足踏み状態であるものの、海外が前年比108%と好調である。一方、法人需要については、依然として伸び悩んでいる。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・今月はゴールデンウィークがあったにもかかわらず、海外旅行が少なく、国内、海外ともにツアーが小ぶりになっている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・先月は少し良くなっているように感じたが、今月はあまり変わっていない。

	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比べると、タクシーの売上が約5%落ち込んでいる。落ち込み幅は前年も同じような状態であったが、体感的にはかなり落ち込んでいるような印象がある。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文数が減少しており、前年比で数%の減少となっている。また、来客数も減少している。	
	観光名所（役員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは天候が良かったものの、桜の開花が遅れたこともあり、個人客を中心に動きが今一つであった。ただ、台湾・韓国等の観光入込が順調なことから、前年並みの来客数は確保できそうである。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・北海道観光も繁忙期に入り、来客数は3か月前と比較して133%の増加となった。国内では修学旅行での利用がみられたほか、海外ではシンガポールやマレーシアからの利用者が増加となった。一方、国内の個人旅行者や台湾・韓国からの利用者は減少した。	
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・来客数は若干ではあるが底を越えた感がある。一時期に比べて、今の環境下での消費に対する考え方に慣れたのか、落ち着きを見せているようである。	
やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・5月は非常に気温が低く、肌寒い日が多く、雨も多かったことから、来客数が大きく減少した。また、春物や夏物の動きが非常に鈍く、特に半袖やスカート関連の商品の動きが厳しかった。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・2～4月にかけて、微増ではあるが、順調に売上が伸びていたが、5月はゴールデンウィーク明けから売上不振となった。自社競合も含めた他店の強力な売出し攻勢が要因として挙げられる。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・天候不順により農家需要が減少している。また、低温が続いたことで、前年と比較して、飲料水やアイスクリームなどの夏型商材の販売量が大きく減少している。	
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エコポイント制度の対象製品の変更に伴う3月の駆け込み需要が落ち着き、小休止的な動きとなっている。	
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・5月中旬から来客数が激減しており、エコポイント効果が出ていなかった。また、気温が上がらないことから、白物商品への関心も薄い。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・サッカーワールドカップ需要が期待外れで、薄型テレビの販売量が予想を大きく下回っている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・年金の支給月とそうでない月の売上に格差が出てきた。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・5月の販売額は国内旅行で前年比76%、海外旅行で94%となっており、前年割れが依然として続いている。期待していたゴールデンウィークの宿泊券も販売量が伸びずに終わった。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークなどの影響から、5月は1年間で最もタクシーの売上が落ち込む月であるが、今年は例年よりもマイナス幅が大きくなっている。4月と比べてもマイナス幅は拡大している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・今年は天候不順の影響で、低温と風の強い日が多く、全般的に外出が控えられている。	
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客が経済の先行きに対して不信心、不安感を持っている様子がつかえる。		
	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・競合他社のマンションの販売在庫数量が、実際には公表されているよりもかなり多いようであり、その在庫を処分するため、新たに大幅な値引きを始めたデベロッパがある。	
	悪くなっている			
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・高級品にも一定の需要が回復しつつある。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・周りの企業にも少しずつ仕事が出てきている。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて、受注量が若干増えている。

	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度予算による公共工事や年内しゅん工を目的とした民間工事の見積引き合いや着工により、建設業界の景気は若干上向いている。 ・販売量が明らかに回復傾向にある。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き		
	司法書士	取引先の様子	・新築住宅、マンション等の新規物件の着工率が増加するような気配は見いだせないが、引き続き中古物件の取引が主体となって全体の落ち込みをカバーしている。	
変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・全国的な天候不順や牛肉の口蹄疫の影響等から、生鮮商品への不安定要素が強まっている。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前後は瞬間的に良かったが、その後が続かず、3か月前と比べてもほとんど変わらない状況にある。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・前年の農産物の不作により、営業倉庫の在庫は減少しているが、本州向け輸送は順調である。5月19日に発表された農産物の作況は天候不順により7日から10日遅れている。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・政策効果に支えられた自動車及び家電の売行きは堅調である。一方、土木建設業界は景気対策効果が薄れている。住宅着工は増加傾向にあるが、水準は低い。個人消費は雇用・所得環境が厳しく、低価格志向が強い。観光関連はゴールデンウィーク中はにぎわったが、宿泊単価が低下しており、全体としては横ばいで推移している。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引については、若干上向いており、建物の建築にも多少の伸びがみられる。	
	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	取引先の様子	・販売先の仕事量が少ない。	
やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・自社の受注量や客の動きが鈍い。	
	その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月の受注額を前年比でみると、3か月前よりも下回っている。	
悪くなっている				
雇用関連	良く なっている	新聞社【求人広告】（担当者）	求人数の動き	・4月は募集広告の売上が前年を若干下回ったものの、5月は前年比139%と大幅に伸びた。ここまで大きく前年を上回ったのは数年ぶりであった。規模の大きな農産物加工の派遣が息を吹き返したのが大きい。他の業種もほとんどが前年比で30%を超えるプラスとなっている。今まで人手不足であっても、様子見で求人を抑え気味だったものが、景気の上向きに後押しされて人員補充に踏み出している。
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・農作業の活発化に伴い、人材派遣業者からの求人が増加している。製造業についても、正社員採用の意欲が感じられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は前年に比べて20%ほど増加している。特にここの上向きになっていたコールセンターの求人は、新規会社の参入や既存会社の業務拡大により、更に増加傾向にある。ただ、タクシー適正化・活性化の影響か、旅客運送の求人は目立って減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が7.9%増加し、3か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数は9.8%増加し、3か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年に比べて増加しているが、全体としてみれば依然として厳しい数字である。一方で、新規求職者は前年から減少し、就職者数は前年から増加している。
変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の月間有効求人倍率が0.3倍台で低迷が続いている。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年を13.6%上回った。一方、新規求職者数は前年を0.7%上回った。月間有効求人倍率は0.42倍となり前年の0.37倍を0.05ポイント上回った。	

やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・正社員の求人は微減で推移している一方で、パート・アルバイトの求人は前年を下回ってはいるものの増加傾向にあり、企業の業績の悪さを示している。
	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・就職情報サイトが主催する合同企業説明会について、2011年卒業生を対象とするイベントを訪ねてみると、出展企業数減少に反して、未内定学生の参加数の多さに驚かされる。こうしたイベントは9月末日まで開催が予定されているが、現時点の参加企業の動きは内定辞退に伴う補充採用対応であると聞いており、この3月から継続して説明会に参加し、内定を得られなかった学生にとっては、更に高いハードルを超えなければならない厳選採用に向かうことになる。
悪くなっている	-	-	-